第29週金の香壇

わたしたちは金の香壇のビジョンを見る必要があります。香壇はとりなす方としてのキリストであり、幕屋の中のあらゆる器具 の活動が(推し進められるように)動機づける場所であり、宇宙における神の行政を執行する中心、神聖な行政の中心、また地 瞰 上で彼の統治を執行する中心を表徴しています。キリストの復活と昇天の後、個人のキリストは団体のキリストとなりました。 今日、個人のキリストとしてだけでなく、団体のキリストとしてとりなしています。金の香壇の祈りを経験するには、キリスト のとりなしにあずかり、わたしたちがどのような人であるかを知り、そこで三つの事柄を見る必要があります。神の中にいるこ と、聖なる食物を食べて満足すること、香を神に捧げることです。香壇で祈るとき、異火も異なる香もなく、燃やされて灰にな り、減少させられて無になる必要があります。 真理要点 経験適用 1. 香壇が祈りのキリスト、と 1. 旧約でも新約でも、神にささげられた香は、神に対するわたしたちの祈りを表徴します。香壇はわたし 日りなしのキリストを表徴してい たちの祈りを指しているのではないことを見ます。そうではなく、それはキリストの祈りを指しています。 なぜなら香壇自体が、キリストのパースンの予表であるからです。それはキリストの祈りの予表ではありま ることを解説して下さい。 せん。香壇が予表するのはパースンであるキリストであって、彼の祈りではありません。 2. 香壇はどのようにして幕屋 2. 祈りの生活は、わたしたちを動機づけて、祭壇、洗盤、机、燭台、箱を経験させます。わたしたちの の器具を動機づけますか? 体、魂、霊の中のモーターが何であるかを知っているでしょうか?そのモーターは祈りの生活です。キリス トはパン、光、箱であるだけではありません。彼はまた香壇でもあります。これは、彼が動機づける方、ま たモーターでさえあることを意味します。 1. 正しい祈りの生活について 1. 正しい祈りの生活は、人のために祈る生活、人のためにとりなす生活です。わたしたちは全地の諸召会 説明して下さい。 のために、またすべての聖徒たちのために祈る必要があります。わたしたちは年長の人、若者、反対者のた めに祈る必要があります。わたしたちはそのようなとりなす生活を必要とします。香壇でささげられるとり 2. 幕屋の中の箱と香壇の機能 なしは、日ごとに増し加わっていくべきです。 の違いを説明してください。 2. 幕屋と外庭の図によれば、箱が焦点です。しかしながら、実際の実行において中心は香壇です。 これ は、キリストのとりなす命が神聖な実行、神聖な行政の中心であることを示します。至聖所の中の箱は、中 央政府、わたしたちの天的ワシントンD.C.です。香壇は、わたしたちの天的ホワイトハウスと考えられ ます。 1. 香壇が表徴されているもの 1. 個人のキリストは復活の後、特に昇天の後、団体のキリストとなりました。こういうわけで、今日、神 がとても深いものであることを の御前で、個人のキリストがとりなしているだけでなく、団体のキリスト、かしらとからだも、同じように \exists とりなしています。かしらであるキリストは天でとりなしており、からだである召会は地上でとりなしてい 説明して下さい。 ます。ですから、とりなす者はキリストご自身だけでなく、キリストと彼のからだです。 2. わたしたちの祈りは、わた 2. わたしたちは第一の祭壇で、とりなしの祈りをすることはできません。第一の祭壇でそのような祈りを したちがどこにいるかを明らか 祈ることができないのは、わたしたちがまだ、とりなしの祈りをささげるような人ではないからです。第二 にするということを解説して下 の祭壇に到達するまで、あなたはとりなしの祈りをささげることができるような人ではあり得ないのです。 さい 香壇に到達することは、わたしたちが第一の祭壇、机、燭台、箱を経験して、わたしたちの目的地に着いた ことを示します。 1. 第一に、わたしたちは祈るとき、幕屋の中にいるべきです。第二に、わたしたちは祈ろうとするとき、 1. 祈るとき、わたしたちはど Н の三つの事柄を見る必要があり まず聖なる食物を食べることによって満足すべきです。第三に、わたしたちは祈るとき、神に香をささげる ますか? べきです。これは、わたしたちが祈るとき、神の中で祈るべきであり、わたしたちの内側にいる力の供給と 2. わたしたちは香壇の中でど しての神をもって祈るべきであり、香としてのキリストをもって祈るべきであることを意味します。 のように祈るべきですか? 2. 香壇は香をたく場所であり、香をたくことは祈ることを予表します。わたしたちは香壇でどのように祈 るべきでしょうか? 今やわたしたちは神の中におり、彼はわたしたちの中におられ、そして今やわたした ちは香壇にいるので、香をたかなければなりません。しかしこの香は何でしょうか? その香はキリストで す。ですから、香をたくことはキリストを祈ることを意味します。 1. 異なる香とは、わたしたちが祈るもので、キリストではなく、キリストと関係がないものです。神の目 1. 「異なる香を持って祈っては \exists ならない」ことの意義を解説し に、そのような祈りは異なるものであり、異なる香をもって祈ることです。わたしたちの祈りがどれほどキ リストと関係があるか、自らに尋ねるということが必要です。この質問は、わたしたちが祈ることが真の香 て下さい。 であるか、それとも異なる香であるかを明らかにするテストです。 2. 異火の意義を説明して下さ 2. 異火とは何でしょうか? 予表によれば、異火とは、全焼のささげ物の祭壇で燃える火以外のあらゆる V. 火です。外庭の祭壇で燃えた火は、天から下って来ました。その火は天から下って来た後、続けて祭壇の上 で燃えていました。香は第一の祭壇からの火でたかれなければなりません。もしあなたが他のどの火によっ てでも香をたくなら、それは異火となります。 1. わたしたち天然の人がキリ 1. わたしたちの行為は、命としてのキリスト(臨在[供え]のパンの机のパン)に相対します。わたした ちの見方は、わたしたちの光としてのキリスト(燭台)に相対します。わたしたちの美徳は、神に対するわ Н スト(箱)と相対することを説 明して下さい。 たしたちの香としてのキリスト(香壇)に相対します。わたしたちの行為、見方、美徳を合わせると、わた 2. 経験から、第一の祭壇と第 したちの天然の存在に等しくなり、それは神の証しとしてのキリスト(箱)に相対します。 二の祭壇の祈りがどのように違 2. わたしたちが第一の祭壇で祈るとき、自分自身や自分の状況で占有されていない方法で祈ることは非常 うのか説明して下さい。 に難しいのです。しかしながら、わたしたちが第二の祭壇で祈るとき、自分自身で占有されることは非常に 難しいのです。香壇でささげられる祈りには自己が含まれていません。その理由は、わたしたちがこの祭壇 で祈るには、まず灰となって無になるべきだからです。

ま 幕屋の中心は箱ですが、幕屋のかなめとなるのは香壇です。なぜなら香壇はモーターが回るように、幕屋の内外、外庭から聖所、至聖所にある全ての器具を運行させます。啓示録第8章でわたしたちは神が宇宙の中で一つの行政を持っていることを見ます。その行政を執行する中心は香壇です。キリストはその御使いであり、手には金の香炉、すなわち全ての聖徒の祈りを持っています。キリストの完成された香を加えて香壇へと捧げられます。その香の煙は神の御前まで立ち昇り、火は地上へと下り、神の地上での行政を執行します。召会が更に多くの人を起こし金の香壇のとりなしにあずからせることが出来るかどうかは、召会の繁殖にかかっています。